

色深辣睡夢

いろ

あかり

あざ

ねの

ゆめ

二

2915  
3





2915  
3  
特

昭和九年  
七月六日  
購

皇藏書

法すまのりイト誅軍に要人は大方用ちす  
せんういしんすはくそとやぶやあやうりや  
らしんすもさうさうすしとてせれ  
すまのりトて

作者曰此一同とてふとす多かくふん  
退屈せんとて一篇と志がくく玉柳物  
大角とは一篇と志がくく玉柳物  
家ふちりとちらととりん  
前後混乱とるやすれも諸君予  
よりおふたやえ



あぢらう夜や

花の

所あそく

園此中

物奇画替



第四回

送いゆ。むすかや棒弓むくおひくれぬ義理と  
あり。ともおこがらむ夏じしれ。事や火の中  
けうら。ちう忠誠路乃をててもつれとらん  
とねもいをあもそら小柳補が人目志のふ  
ほううぐう。さし雙刀も昔にあのかのむす  
おみまむも。夜も丑のまある鐘の声おび柳  
子七つ柳やあえく大角がまらうひてあつてあ  
とそやうぐさ藤をさあもかまよく移ころか  
そり人声がああむさうてけろトれ戸を













巴澤老之中

三





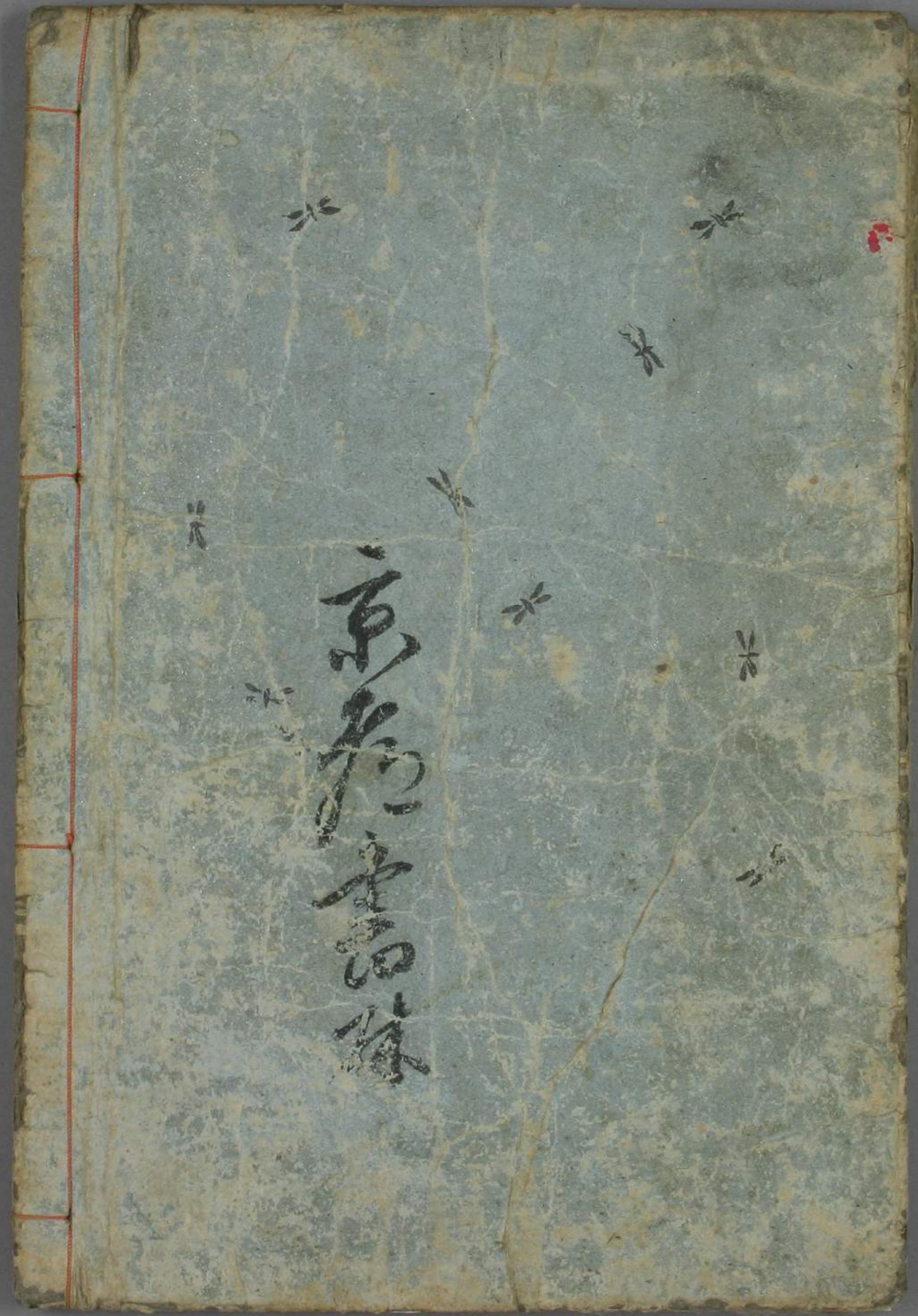












東京の書目録